Abstract

持続的な平和（Sustaining Peace）の実現に向けた取り組みの現状と課題
――国際安全保障と国際平和活動の連動性の探求

篠田　英朗（東京外国語大学　教授）

世界的な武力紛争の動向は、国際政治の変動と関わっている。今日では多くの国内紛争と国際紛争が重なり合うが、その背景に国内政治と国際政治の連動性がある。20 世紀初頭までの帝国主義の時代に至るヨーロッパ国際社会では、主権国家の数は減少していた。二つの世界大戦をへて帝国群が崩壊していくと、今度は多数の新興独立諸国が生まれた。武力紛争は、それらの諸国において多発した。冷戦終焉はソ連という帝国の崩壊を導き出し、21 世紀の今日でもなお帝国の崩壊の余波を受けた武力紛争が起こっている。「持続的な平和」のための政策を充実させるには、国内統治体制を整備することだけでなく、国際的な環境との適合性を確保することが重要になる。冷戦終焉以降の国際平和活動は、国内紛争への対応に焦点をあててきたため、国家体制の整備に力点を置いてきた。その努力を発展させるためには、国際安全保障と国際平和活動の連動性を高めていく視点が求められる。